

矢作川流域圏懇談会通信

R6 海部会編 vol. 2



発行日：令和6年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第16回海部会まとめの会を開催しました！

第16回海部会まとめの会では伊勢湾・三河湾の水産資源に必要な栄養や生息場について考えるシンポジウムの情報共有、第14期の振り返りと第15期の活動目標について話し合いました。

日時：令和6年10月24日（木） 14:00～16:00

場所：西尾市中央ふれあいセンター

参加人数：13名 ＊事務局を含む



◆主な会議内容

1. 伊勢湾・三河湾の水産資源に必要な栄養や生息場について考えるシンポジウムの情報共有



青木座長より「伊勢湾シミュレータの研究成果について」や「愛知県の漁場の生産力強化への取組」等に関してシンポジウム内で話題となった話を共有していただきました。

2. 第14期の振り返り



第14期の活動として下記に示す取り組みを実施しました。

「干潟造成箇所・ヨシ原再生箇所の見学」、「伊勢・三河湾の貧栄養化についての情報共有・意見交換」、「地域連携イベントの参加」、「流域圏担い手づくり事例集の発刊、事例集交流会2024の開催」、「矢作ダムでの土砂分級実験の現場見学・意見交換」等

3. 第15期の活動目標



WG参加者で活動目標について議論し、下記内容で進めることを確認しました。

テーマ①：豊かな海の再生に向けた取り組み

- ・海の栄養塩不足に関する対策に関する（干潟・浅場造成や浄化センターでの試験運用など）の情報共有および意見交換を行う。
- ・アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- ・伊勢湾・三河湾の環境改善に取り組む種々の団体との交流・情報交換を積極的に行う。

テーマ②：海と人との絆再生

- ・一般市民に海の現状や課題を正しく伝えるために、市民部会とも連携して市民が参加しやすいイベントを開催する。
- ・海と陸域との関係性の理解を深めるため、他部会との連携を一層進めるとともに、海部会への参加者を増やす。
- ・三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。

テーマ③：ごみの問題

- ・三河湾だけでなく、より広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していく。
- ・岐阜・愛知・三重の海洋ごみに対する検討状況について情報共有するとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。

テーマ④：土砂の問題

- ・河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の状況を把握するとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う。
- ・出水に伴う土砂流出についても情報共有し、総合的な土砂問題に関する公開講座について検討を始める。

4. 今後の予定



事務局・関係者より以下の連絡・案内がありました。

- ・今後のスケジュール：全体会議（11/26）、第56回海部会WG（R7 1月下旬ごろ）
- ・流域連携イベント：第61回多摩川流域セミナー（11/30）、第5回公開講座（12/17）

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

● 伊勢湾・三河湾の水産資源に必要な栄養や生息場について考えるシンポジウムの情報共有

- ・今回のシンポジウムの参加者は三重県と愛知県の漁業者が中心であり、市民の参加は少なかった。これは市民と漁業者に「海との距離感」に乖離があるためと考えられる。そのような面が明らかになったシンポジウムとを感じる。当面は漁業が成り立つ海を目指すべきであり、市民の方にも理解してもらうことが重要である。(鈴木輝)
- ・昔はあった栄養が海から無くなり、魚が生息できなくなっているということが非常事態であることを認識する必要がある。(高橋)

● 第15期の活動目標

- ・山と海のつながりについてもう一度、市民の方に知っていただく必要があると思う。海部会に関しては近年参加者が減ってきていると感じる。その原因を今一度考える必要がある。三重県の島の方や議員の方を対象に勉強会を実施している。その中で漁業関係者は漁獲量が減少しているため、来年も同じ仕事を続けていけるのか不安という声が挙がっている。行政と市民の時間間隔が違うため矢作川流域圏懇談会が先導を切って市民の方に海の現状を伝えるようなイベントを市民部会と連携して実施できないか。(鈴木輝)
 - ▶ 是非、市民部会と連携して実施できればと感じる。(鈴木建)
 - ▶ 海に触れ合いながら海の現状を知ることによって海部会に参加して「楽しい」と感じるのが重要と考える。(鈴木輝)
 - ▶ 三谷水産高校等を巻き込むことで、学生とのつながりも増加する。船等もお借りできるのであれば市民の方にも知っていただく機会になると考える。(石田)
- ・昔は親戚や近隣の手伝い等を通じて新鮮な海産物を食べる機会が多かった。そのような経験をしていると海に対する意識が生まれる。しかし、現在はお金を払って食べることが基本であり、若い人は海に対する意識が減少している。(鈴木建)
- ・愛知県水産試験場では高校生を対象に伊勢湾の調査等の体験を実施している。高校生は非常に理解が早く、吸収力に加えて考える力が身についていると感じる。「きれいな海」や「豊かな海」の違いを理解していただく機会となる。(石田)
- ・外にどう発信していくかが重要であり、マスコミにも関心を持っていただくことで外部に発信することができる。マスコミが関心を持つためには市民が関心をもつ必要がある。(鈴木輝)
- ・近年はイワシが三河湾の奥に生息している。それを食べるためにスナメリも生息するようになった。三河湾の奥に生息することで生態系に悪影響が生じている。(石田)
- ・地元の漁業関係者が三河湾大感謝祭を知らないことや組合長が参加していないことは問題と考える。(石川)
- ・農業については市民部会で話題になっている。漁業についても取り上げていく必要があり、他部会との連携も重要と考える。(井上)
- ・来期は海と人との絆再生に関連して市民に豊かな海や本来の海を知っていただくために市民部会や地域部会と連動していきたい。おいしい海産物等を食べながらイベントを実施していきたい。(青木)
 - ▶ こういったイベントを通して、新鮮な海産物を食べている市民の反応を見ることで漁師さんのやりがいや達成感にもつながると考える。(鈴木建)

● 今後の予定

- ・1月下旬ごろを目途に海部会 WG を開催する予定である。内容については海部会を中心に FW を実施し、来期の活動について話したい。(青木)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

